



かとう しんじ
加藤 真二 医師（内科一般・消化器内科）

藤田保健衛生大学卒
医学博士、日本産業医学会産業認定医

院長として忙しい日々の中、スタッフの話にもよく耳を傾けてくれる加藤真二医師。医師への思いや院長として今後どんな病院にしていきたいかをお聞きしました。

— 医師を志したきっかけは？

加藤：もともと人に喜んでもらうことが好きで、何らかの喜んでもらえる職業に就きたいと思っていました。初めは、おいしいコーヒーや食事を楽しんでもらえるような飲食業がいいと思っていたのですが、ある時、父親に医業は究極の喜びを提供できる職業であると聴き、力強い魅力を感じたので、以来、医師を志しました。

— 消化器内科を選んだ理由は？

加藤：祖父、父ともに消化器外科医でしたので、自分も消化器外科医になりたいと思っていた時期もありました。でも、患者さまとじっくり長く付き合えるのは内科ではないかと考え、また、血が苦手ということもあって、消化器内科を選びました。また、その後、全人的に患者さまを診る（病気だけで

なくその背景にある心やストレス、社会的背景も診る）ことができるように、心療内科的アプローチも学びました。

— 今後どんな病院にしていきたいですか？

加藤：患者さまはもちろんですが、当院の職員や当院にかかわるさまざまな方にも、理念でもある「ここに来て良かった」と思ってもらえるような病院にしていきたいです。当院は、リハビリテーションと生活習慣病対策に主軸をおいてきました。この分野で、地域完結型医療（地域内で各医療機関が連携して、必要な医療を提供する医療体制）の重要な担い手となって地域に貢献し、なくてはならない医療機関、選んでいただける医療機関になれるように今後も努力していきます。

— 趣味や特技、最近のマイブームがあれば教えてください。

加藤：趣味は、なかなか行けませんが、旅行と温泉です。旅は京都が好き。温泉は、成分などにも興味があり、ちょっとしたマニアと言えるかもしれません。特技かどうか分かりませんが、柔道と少林寺拳法は黒帯です。最近のマイブームは、ぼち袋の収集です。

— 日頃の診療で心がけていることがあればお聞かせください。

加藤：医療に関しては、できる限り幅広く、最新の知識や見解を踏まえて患者さまに提供できる医師であり続けたいと思っています。また、患者さまに対しては、話しやすく、相談しやすい雰囲気作りを心がけています。



加藤医師のおすすめの温泉地

ごんぎつねの湯 （愛知県半田市平和町5-73）



半田中央インターの近くにある、県内トップレベルに成分の濃い温泉です。基本は高張性食塩泉ですが、重碳酸イオンも多量に含まれているので、舐めるとかなりしょっぱさがあり、かつ、ぬるぬるした感触も併せ持つ温泉で、体がたいへん温まります。源泉は59℃と高く、いったん溜めて、ある程度湯温を下げたから湯船に投入しているようです。露天風呂の最奥にある滝壺の湯船が、源泉かけ流しになっていて熱いですが最高です。